

SAP Business Intelligence Suite
文書バージョン: 4.1 Support Package 6 – 2015-08-04

SAP Business Intelligence Suite リリース の制限



目次

1	このドキュメントについて.....	3
2	リリースの制限.....	4
2.1	SAP BusinessObjects BI プラットフォーム.....	4
2.2	SAP BusinessObjects Web Intelligence.....	5
2.3	データアクセス.....	6
2.4	SAP BusinessObjects Live Office.....	7
2.5	SAP Crystal Reports.....	8
2.6	SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP.....	9

1 このドキュメントについて

リリースに関するこれらの制限には、SAP Business Intelligence Suite に存在する既知の問題と設計上の制約について重要な情報が含まれています。このソフトウェアをインストールする前に、ドキュメント全体を読むことをお勧めします。このリリースの詳細については、<http://help.sap.com/bobip> を参照してください。

2 リリースの制限

2.1 SAP BusinessObjects BI プラットフォーム

SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1 SP06 から SP05 へのダウングレードの前提条件

SAP BusinessObjects BI Platform 4.1 SP06 から SP05 にダウングレードするには、必ず FRS ファイルバックアップと CMS データベースバックアップを手動で復元してください。また、次の手順を実行してください。

- DFO の場所 ► [インストール先](#) ► [SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0](#) ► [dfo](#) ► [dfo_xxxxxxxxxxxxxx](#) ► [SI](#) ► に移動します。
- 2 つの DFO ファイル (「CrystalReportsNextGenProcessingServiceContainer」および「OutOfBoxCrystalReportsNextGenProcessingServer」) をキャッシュディレクトリから削除します。
- それを新しいディレクトリに移動します。
- 次に、SIA を再起動します。

BI ラウンチパッドおよび CMC では、Web Intelligence レポートの SFTP 出力先への送信は有効化されていません

4.0 から 4.1 SP6 へのいくつかのパッチアップグレードでは、BI ラウンチパッドおよび CMC での Web Intelligence レポートの SFTP 出力先への送信は有効化されていません。これは、PIN ファイルのデプロイメントのエラーが原因です。

「回避策」

- BusinessObjects_Webi_pin.xml を <BIP_INST_DIR>/setup/packagestemp から <BIP_INST_DIR>/sap_bobj/enterprise_xi40/packages にコピーします。
- SIA を再起動します。

BusinessObjects_Webi_pin.xml ファイルが <BIP_INST_DIR>/sap_bobj/enterprise_xi40/dfo にデプロイされ、<BIP_INST_DIR>/sap_bobj/enterprise_xi40/packages から削除されます。このように BusinessObjects_Webi_pin.xml ファイルが <BIP_INST_DIR>/sap_bobj/enterprise_xi40/packages から削除されたことは、PIN ファイルのデプロイメントに成功したことを示しています。

これで Web Intelligence レポートの SFTP 出力先が有効化されました。

2.2 SAP BusinessObjects Web Intelligence

改ページ後に挿入される最後の列

テーブルに選択した設定にかかわらず、予期しない列がクロステーブルに表示されます。

CurrentDate() または **LastExecutionDate()** 関数は、**If** 文で使用されると、データオブジェクトが正しくない時刻を表示することがあります。

特定の条件が満たされた場合に日付オブジェクトを表示する if-else 文で CurrentDate() または LastExecutionDate() 関数が使用されると、日付オブジェクトが正しくない日付を表示します。これは、時間がマシンのタイムゾーンに基づいて足したり引いたりされるためです。たとえば、マシンのタイムゾーンが UTC+1 の場合、結果のタイムスタンプは 1 時間進みます。

この問題を回避するには、日付を文字列と連結するか、または FormatDate() 関数を使用して日付を書式設定することができます。ただし、これはすべてのタイムゾーンで有効ではありません。

Web Intelligence レポートが複数回最新表示されると、レポートで生成された **SQL** が予期せず変更されます。

クエリで使用されたスマートメジャーを含む .unx ユニバースに基づいた Web Intelligence レポートを作成する場合、レポートが複数回最新表示されると、生成された SQL は予期せず変更されます。

Java の **Safari** オプションを使用する個別のオブジェクトを選択することはできません。

Mac OSX 上で実行されている Safari の Web Intelligence Applet インタフェースで複数のオブジェクトを選択しようとする場合、**Cmd** キーを使用して個別にオブジェクトを選択することはできません。

新しく追加されたフォントは、**Web Intelligence** ドキュメントで使用することはできません。

Web Intelligence ドキュメントでは、BI 環境で追加したフォントに変更したとしても、このフォントは Arial のままです。

code128.ttf フォントを使用したバーコードがある **Webi** レポートは、**PDF** に正しくエクスポートされません。

HTML で Web Intelligence レポートを作成して PDF にエクスポートしようとする、バーコードのフォントの幅は維持されません。

ドキュメントのソース変更後にスケジュールが失敗します。

ソース変更機能を使用して、既存のドキュメント (UNV、UNIX、BEx クエリ) のデータソースを変更した後、このドキュメントがスケジュールされた場合、スケジュールで使用された ID は無効になっており、スケジュールは失敗します。

誤った互換コンテキストのサポート

2 つの選択した互換コンテキストでクエリを最新表示するとエラーメッセージが返されます。予期しない列挙型 NeedOfContext です。(IES 01001)

2.3 データアクセス

Progress Open Edge 11.3

アンダースコアを使用するテーブルの値は表示できません。詳細については、インシデント ID 1570151021 を参照してください。

Simba JDBC ドライバ 1.0.23

Simba JDBC ドライバは、**DISTINCT** および サブクエリをサポートしていません (Simba ドライバでの既知の問題)。

2.4 SAP BusinessObjects Live Office

セッションタイムアウトのない Live Office

Live Office にはセッションタイムアウトがないため、ユーザは手動でログオフする必要があります。

クエリパネル - プロンプトによるランクのフィルタリング

ユニバースに基づくクエリでは、ランクの *WHERE* 条件をプロンプトとして定義することができません。選択すると、ユーザは実行時にアカウント情報の入力を要求されません。

回避策 : ユニバースに基づくクエリでは、ランクとプロンプトを別々のフィルタとして定義する必要があります。

階層 LOV に基づくフィルタクエリ

- 「階層 LOV (.unx ユニバース) : LOV からの値選択と互換性のない手動入力」
手動入力と LOV からの値選択の両方を使用する場合は、LOV から選択された値だけが取得されます。
- 「階層 LOV (.unv universe): 手動入力のみサポート」
階層 LOV に基づくフィルタリングでは、手動入力だけがサポートされています。LOV から選択された値は返されません。

チャンク化 LOV (.unx universe) - デフォルト値のある日付型と一覧からの選択はサポート対象外

クエリパネルでは、[デフォルト値の設定] と [一覧から選択] のオプションがプロンプトダイアログによって日付書式とは認識されません。

プロンプトのバインド

- 「プロンプトのネスト」
プロンプトのバインドは、ネストされたプロンプトのどのレベルでも使用できません。
- 「階層 LOV (.unx universe)」
クエリパネルではプロンプトのバインドが許可されておらず、Report パーツにより階層 LOV に基づくプロンプト (Excel 範囲または定数値に対するプロンプト) に対してこのオプションを使用することはできません。

- 「階層 LOV (.unv universe)」
プロンプトを Excel 範囲にバインドする場合、クエリパネルで **LOV の追加** オプションは許可されておらず、また Report パーツにより .unv ユニバース上の階層 LOV に対してこのオプションを使用することはできません。手動入力のみサポートされています。
- 「**[LOV のフィルタ]** オプションを使用した LOV へのプロンプトのバインド」
[LOV の追加] オプションは、**[LOV のフィルタ]** オプションを使用する LOV へのプロンプトには使用できません。
- 「インデックスを持つ .unx ユニバースでの Excel へのプロンプトのバインド」
[一覧から選択] オプションが有効化されている場合、インデックスを持つ .unx ユニバースに基づくプロンプトをバインドすることはできません。最新表示時にエラーメッセージ「ドキュメント ID を取得できません」(LO 26300) が表示される。
回避策: 手動入力を許可します (**[一覧から選択]** オプションを無効化)。

2.5 SAP Crystal Reports

クリスタルレポートドキュメントのプロンプトパラメータの値範囲を "Exclusive" に指定

Crystal レポートドキュメントのプロンプトのパラメータに基づいて範囲を渡す場合、“Exclusive” として範囲を指定して、ドキュメントを最新表示にするとその値はアプリケーションでは考慮されません。パラメータの範囲が exclusive または inclusive (開始値および終了値の両方) として定義されているかどうかにかかわらず、プロンプトを含む Crystal レポートドキュメントを最新表示すると、値は常に考慮されます。

[データソースを開く] ダイアログでのフラットファイルパスを指定した後のローカルおよびリモート接続タイプの切替え

Enterprise の Crystal Reports では、ベンダーによる接続のための **[データソースを開く]** ダイアログで、.CSV/.TXT をデータソースとして選択し、.csv or .txt ファイルのパスを指定すると、ローカル接続タイプとリモート接続タイプの切替えは機能しなくなります。

2.6 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP

特定のワークフローでのパフォーマンスの低下

OLAP ワークスペースでドリル、軸の交換、並べ替えなどの操作を実行すると、4.1 SP6 では 4.1 SP5 と比べて応答が比較的遅くなります。

重要免責事項および法的情報

コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼働システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものです。ただし、この免責事項は、SAP の意図的な違法行為または重大な過失による場合は、適用されません。さらに、この文書により SAP の直接的または間接的な契約上の義務が発生することは一切ありません。

ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例: 「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見いだすヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証を行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。すべてのリンクは、透明性を目的に分類されています (<http://help.sap.com/disclaimer> を参照)。

www.sap.com/contactsap

© 2015 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。